

## 特別講演

12月4日 17:10-18:10

<場所>とくあいだ：知の統合への哲学的アプローチ

野家啓一 東北大学理事

### 講演概要：

近代科学は17世紀の科学革命によって<知的制度>として確立され、次いで19世紀半ばの第二次科学革命を通じて<社会制度>としての仕組みを整えた。それと同時に、科学は<自然哲学>としての統一性を失い、<専門分化>の道を突き進んで今日に到っている。本講演では、その歴史的経緯を振り返りながら、<場所>と<あいだ>という日本の哲学に固有の概念を手がかりに、<知の統合>という課題に哲学的視点からアプローチしてみたい。

### 講演者紹介

東北大学理学部物理学科卒業。東京大学大学院科学史・科学基礎論博士課程中退。南山大学専任講師、プリンストン大学客員研究員などを経て現在、東北大学文学部教授・理事。専攻は科学哲学、言語哲学。近代科学の成立と展開のプロセスを、科学方法論の変遷や理論転換の構造などに焦点を合わせて研究している。また、フッサールの現象学とウィトゲンシュタインの後期哲学との方法的対話を試みている。主な著書に、『言語行為の現象学』『無根拠からの出発』（以上、勁草書房）、『物語の哲学』（岩波書店）、『科学の解釈学』（新曜社）、『クーン（現代思想の冒険者たち24）』（講談社）など、多数。1994年第20回山崎賞受賞。